



# 価格より価値で勝負する人々 日本カタクナ道場



タケヒロ君 和歌山にて黒竹について学ぶ

## 黒竹道場 in 和歌山



日本には商品の価格より、価値を大切に物づくりをしている人がいます。

便利になった世の中で楽をせず、古くから続く材料や技法<sup>かたく</sup>を頑なに守ることが当たり前だと考えている人がいます。

このように頑<sup>かたく</sup>な物づくりをしている人をタケヒロ産業は敬意を表して「カタクナ職人」と呼ぶこととしました。

タケヒロ産業は「カタクナ職人」が製造する製品や材料の販売促進をサポートすることで、後世に職人技術を残すお手伝いをしていきます。素晴らしい物は作り手が残すのではなく、製品を使い、その良さを分かってくれる人が増えることで残っていくのだと考えています。カタクナ道場をきっかけに一人でも多くの方がこだわりの製品や材料に興味を持っていただければ幸いです。



第2回カタクナ道場は和歌山県日高町を訪れて黒竹への愛を「カタクナ職人」に憧れるタケヒロ君と学ぶことができました。黒竹とはその名の通り、黒い竹です。淡竹の変種なので孟宗竹のように太く、大きくはなりません。直径は2～3センチくらいの物が多く、高さは3～5メートル程度まで成長します。最初の半年くらいまでは緑色なのですが、徐々に黒くなり2年くらいで真っ黒に変わっていきます。その独特の色合いは通常の竹よりもモダンな雰囲気があるので和モダンな住宅の空間を演出するにはぴったりな素材でもあります。

今回訪れた和歌山県日高町にある原谷地区は全国一の産地で、60ヘクタールの竹林面積を有しており、全国シェア約6割を誇ります。その中でも黒竹を心から愛している「カタクナ職人一家」に普段の作業風景、そして黒竹の思いを聞いてきました。

## Q1. 黒竹の色って黒く塗っているのではないのですね



知らない人は普通の竹に着色していると思っている人も多いですよ。黒竹が生えている場所を見れば一目瞭然です。すぐ裏に黒竹が生えている山があるから一緒に見に行きましょう。



これが黒竹の山ですか！生えている竹が本当に黒いですね。



見ればわかりますよね（笑）



普通の緑色の竹と黒色の竹が混じって生えているんですね。



今年の春に生えてきた竹はまだ色が緑なのですよ。

徐々に節の所から黒くなってきて2年で全体的に黒っぽくなってきます。日当たりのよい場所ほど黒くなってくれるんですよ。



この黒は太陽の力を借りてできた自然の黒なのです。



2年目の黒竹と1年目の黒竹

## Q2. 黒竹はどうやって製品になっていくのですか？



まずは伐採です。黒竹は細いので鋸やハサミを使って切り取っていきます。その後、ある程度まとめて竹林に放置しておきます。



え、せっかく伐採するのに、竹林においてきちゃうのですか？

それにも意味があるのですよ。天日干しをさせているのです。

竹の葉があった方が竹の中の水分がなくなるのが早いので、乾燥させてから葉を払い落として運ぶようにしています。竹の葉が無い方が運ぶのが楽になりますから、一石二鳥なのです。



ちなみに一日でどれくらいの竹を一人で切り出すのですか？



一日600本くらい切り出せれば一人前と言われるんです。黒くなった竹だけを選びながらの作業なので、中々大変な作業ですよ。竹が生えているのが日当たりが良い急斜面の場所が多いので足場も良くないですから、毎日大量の汗をかきます（笑）



……。600本ですか。凄すぎます。



さらに切り出した黒竹は余分な枝を払い、2メートルの長さにカットして同じ太さの物を集めておきます。



それで製品として完成なのですか？



ここからが本番ですよ。竹は微妙に曲がっている物が多いので1000℃の熱で竹をあぶって真っ直ぐに矯正させます。火であぶることで黒竹の油が浮き上がり、良い艶が出てきます。真っ直ぐで艶のある黒竹がやっと完成します。



黒竹って切っただけでは製品にならないのです。



収穫はすべて手作業



曲りを一本ずつ修正していく

### Q3. 黒竹のことで苦労していることってありますか？

一番の苦労は獣害ですね。シカが春先に筍の頭を食べてしまうのです。頭を食べられた筍は成長が悪くて大きく育ちません。



昔はシカが里に下りてくるなんて事は考えられなかったので、最初被害があった時は黒竹が育たない理由が分からなかったくらいでした。今ではシカの侵入を防止するために網をはったりして、少しずつ効果が始まっていますが、この問題は職人だけではどうにもならないですね。



環境問題が黒竹の生産にかかわっているとは思いませんでした。黒竹職人が猟師さんみたいな事もやらなければいけない時代なのですね。

それ以外にも放置竹林の問題もありますね。



山が竹の浸食で弱ってくると病気が発生する恐れが出てきます。実際にカビの仲間を病原菌とするテングス病が黒竹を脅かしています。風通しのよくない竹林でテングス病が発生すると森全体に広がってしまいます。どんどん黒竹が出荷できれば適度に伐採されるので竹林に風が通り豊かな里山になるはずですよ。



黒竹が生育している山



黒竹を使うことで産地を守ることができるということですね。僕のような新米職人でも使うことで黒竹を守ることができるのですね。

### Q4. 黒竹の将来はどうなっていて欲しいですか？

黒竹に携わってくれる人たちが増えるといいなと思っています。昔はこの地区の7割くらいの方が、何かの形で黒竹に関わっていました。地域の人たちの高齢化もあり、多くの方が黒竹から離れていきました。黒竹の全国出荷1位は地域の住民と一緒に作り上げた成果です。これから、この地域の誇りとして黒竹が残るために何が必要なのかをいつも考えています。



地元でも愛されるようになってほしいですね。この地区で黒竹がとれなくなってしまうと日本から多くの黒竹が消えてしまいますからね。



我々生産者側も意識を少しずつ変えていかなくてははいけません。以前は庭園資材として使われてきましたが、最近では住宅や店舗内装に使われるようになってきました。問い合わせがあった時に製品を出荷できるように1年中黒竹を確保するように心がけています。そのような小さな工夫も産地を残すために役立つのではないかと考えています。



製品を作るだけでなく、産地の未来も考えている黒竹は間違いなく「カタクナ製品」ですね。勉強になりました。





タケヒロ産業が自信をもっておすすめする

# カタクナ製品



詳細はタケヒロ産業  
総合カタログ22を  
ご参照ください。  
カタログが必要な方  
はお気軽に問合せく  
ださい。

●垣根材料 カタログ掲載 p108



黒穂



黒竹



長穂



長穂(根切)



穂先

●すのこ カタログ掲載 p146



玄関すのこ

●庭木戸 カタログ掲載 p97



黒竹入庭木戸

●天然素材ボード カタログ掲載 p171



黒竹半割 タテ貼

●天然竹垣各種 カタログ掲載 p93 ~ 97



丸太屋根付垣



白玉袖垣(黒枝)



図面三河垣B(腰黒竹)



図面黒穂垣B(腰半割)



造園緑化総合資材  
株式会社タケヒロ産業

愛知県額田郡幸田町坂崎東鳴沢 15-1

Tel:0564-63-1212

<http://www.e-takehiro.co.jp>

